

IMAGINE
THE
FUTURE.

附属大塚 学校だより

本校は、世界最高水準の知的障害教育を目指します。

「振り返り方」を工夫すること ～教室の窓から②

大塚祭特別日課が始まり、各部がステージ発表や販売、模擬店、作品展示に向けた取り組みを行っています。大塚祭は文化的活動の発表のほかに、中高等部が作業学習で製作した商品の販売や、カフェサービスなど、日頃の学習の成果を発表する機会でもあります。今年はどのような子ども達の姿が見られるか楽しみです。

学校行事は、子ども達の育ちを支える貴重な生活経験の場です。応援してくれる周囲の人から「よかったね!」「頑張ったね!」と褒められることで、自信を持って前向きに取り組もうとする気持ちや、自分自身をポジティブに捉える自己肯定感や自尊感情が育ちます。人との豊かな関わりを育む教育を大切にする本校では、授業の「振り返り」を通して自分がどのように取り組んだかを振り返るだけでなく、友達のよいところを見つけ、互いに認め合う機会も積極的に設けています。人に「認められる経験」と、人を「認める経験」の積み重ねは、相手を尊重する気持ちを育てます。大塚祭に向けた練習では、仲間同士で互いに喜び合ったり、励まし合ったりする姿がたくさん見られています。

校内の授業を参観していると、様々な「振り返り」の工夫が見られます。小学部中学年では「ことば・かず」の授業の導入で、子ども達自身が学習の目標を確認していました。学んだことを振り返る時、その前提に子どもが何を指すのかを理解することは、小学部段階においても大切なことです。目標がわからなければ何を振り返ればよいのかわからず、ただ「できた」「楽しかった」で終わってしまいます。小学部高学年の「ことば・かず」のでは、経験を踏まえて学んだことを「振り返りシート」に記入して報告していました。教師は、生活年齢や発達段階に応じて一人一人にあった「振り返り方」を考えていました。

「できること」や、「知っていること」などについての自分自身の知識を持つことは、将来の職業選択にいかされます。「メタ認知」（平成30年度学校だよりNo.9.12参照）と呼ばれる自分を俯瞰して捉えることのできる自己理解の力は、「振り返り」の機会に育つと言われています。自分が持っている力を理解し、実際の生活に生かすこと、そして将来の生活や職業を考えることは、知的障害のある子ども達にとっても大切です。「いいね!」「〇〇ができるんだね!」自分では気づくことが難しい子ども達に対し、私たち教師や仲間が気づきを支える、そんな教育を大塚は大事にしています。幼稚部段階から始められるキャリア教育、まずはお子さんのよいところをたくさん伝えてあげてください。



授業の始めにみんなで目標を確認します



「長い短い」の学習を振り返る児童



「高い低い」の学習を振り返る児童の様子



動画で振り返り、次時の課題を考えます

受託事業の紹介

～実践研究の深化、そして発信③～

本年度の連携事業について、主に外部機関から委託された4つの事業を紹介します。

①事業名：文部科学省「学習上の支援機器等教材活用評価研究事業」（3年次）

ICTを含めた支援機器等教材の活用と学習評価に関する研究。

②事業名：文部科学省「在外教育施設の高度グローバル人材育成拠点事業『日本人学校における特別支援教育に関する遠隔支援の実施に向けた実証的研究』」（3年計画の1年次）（担当機関：国立特別支援教育総合研究所、関係機関：公益財団法人海外子女教育振興財団）

日本人学校に在籍する特別な教育的ニーズがある児童生徒の指導する教員への遠隔支援システムの構築に関する研究。

③事業名：北京点賛無限网络科技有限公司「中国北京点賛教育の特別支援教育の推進に資する事業」（3年計画の1年次）（筑波大学点賛特別共同研究事業中国分室を本学に開設）

中国の特別支援教育を推進するため、補助機器、教材教具及び指導法の開発、及び教員指導力育成システムの開発を目的とした研究。

④事業名：（株）三和製作所「教材カタログ『スクラボ』活用事例の提供」

特別支援教育教材を紹介するページへの活用事例の執筆と写真の提供。

今年で3年目となる①ICT支援機器等教材の研究では、保護者を対象とした研修会を企画しました。第1回目は、支援機器活用の講演と音声ペンを活用した実践のワークショップを行い、多くの保護者の方々が実際に教材に触れながら活用方法を学んだようでした。第2回目は、コミュニケーション支援アプリ「DropTalk HD Lite」を開発した青木高光先生の講演と同アプリ活用のワークショップを企画しています。こうした支援機器について一緒に学ぶことで、お子様の育ちを一緒に支えていきましょう。

この他に本校では本学の助成を受けた「国際教育拠点事業」として、「インドネシアの知的障害特別支援学校との授業研究による交流事業」にも取り組んでいます。本事業は、インドネシアバンドン市内のチパガンティ特別支援学校と交流協定を結び、お互いの授業研究を通して教師の授業力及び特別支援教育の専門性の向上を図ることを目的とした研究です。昨年度は、本校にインドネシアの教員を2回に渡って授業研究会に招待しました。今年度は、本校教員をインドネシアに派遣し、授業参観とスカイプによる双方向の遠隔協議を計画しています。



実際に音声ペンを使う保護者の皆さん



ワークショップ講師の漆畑先生（右）



昨年度、インドネシアの教員が本校授業研究会に参加した様子

お知らせ その1

～「実践障害児教育」原稿執筆依頼～

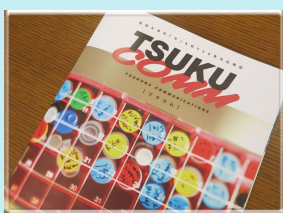
インクルーシブ教育の推進と共生社会の実現を目指す本校では、幼稚部から高等部がそれぞれの生活年齢に応じた「交流及び共同学習」に取り組んでいます。これまでの実践研究の成果を学会や様々な場を通して発信してきたことで、新聞社などの取材を受ける機会も増えています。

今回「月刊 実践障害児教育」（学研教育みらい）」編集部から原稿執筆の依頼を受け、2019年1月号（2019年12月16日発売予定）から2020年7月号までの計7回の連載が決まりました。「みんなで学びを広げていこうよ！交流及び共同学習～心のバリアフリーとインクルーシブな学び～」というタイトルを予定しています。生き生きとした交流の様子が伝わるよう工夫して執筆していきたいと思ひます。どうぞご期待ください。

お知らせ その2

～筑波大学広報誌ツクコム掲載～

9月7日（土）附属高校桐陰祭で行った交流会に本学職員向けの季刊広報誌「ツクコム」編集部の取材を受け、11附属学校群の「交流及び共同学習」を先導する本校の取り組みが紹介されました。附属駒場の生徒が大学と共同で「ミライの体育館」コンテンツを制作し、本校小学部、附属小の3校が交流した実践は、全附連の高等学校部会で附属駒場から紹介され、全国の普通附属からも注目されるようになりました。本校は、共に作り上げ、共に育つ交流の場を目指しています。今後は、持続可能な交流を計画し、全国に発信していきたいと思ひます。広報誌「ツクコム」は2階副校長室廊下に掲示しています。ぜひご覧ください。



11月の予定

- 1日（金）授業研究会（幼中高）
*下校時刻は各部でご確認ください。
介護等体験L-②
願書受付開始～7日（木）
- 2日（土）免許状更新講習（月曜日課）
授業参観（幼小のみ）
- 3日（日）文化の日
- 4日（月）振替休日
- 5日（火）2日（土）の振替
- 6日（水）発育測定スマイル（中）
介護等体験幼-①
保護者会（幼）
- 7日（木）発育測定スマイル（高）
介護等体験幼-②
願書受付締め切り
- 8日（金）附属坂戸高校交流②（高）
- 11日（月）合同朝会
- 12日（火）大塚祭予行練習
介護等体験M-①,中大-①
- 14日（木）第2回ICT講演会・ワークショップ
*保護者対象（要申込）
- 15日（金）全学部14:00下校
- 16日（土）大塚祭
介護等体験M-②,中大-②
*下校時刻は各部でご確認ください。
- 18日（月）振替休日
- 19日（火）ALT英会話（中）午前
体育校外学習（中）午後：講道館
- 20日（水）にこにこ広場①教育相談（幼）
附属小交流会②（小）
個人面談①（高1.2：14:00下校）
- 22日（金）避難訓練（大規模地震・火災）
個人面談②（高1.2/14:00下校）
個人面談①（小中/14:00下校）
- 23日（土）勤労感謝の日
- 25日（月）合同朝会
- 26日（火）ALT英会話（中）
個人面談③（高1.2/14:00下校）
個人面談②（小中/14:00下校）
- 27日（水）個人面談④（高1.2/14:00下校）
個人面談③（小中/14:00下校）
- 28日（木）附属小交流会③（小）
介護等体験N-①（中）
個人面談⑤（高1.2/14:00下校）
個人面談④（中/14:00下校）
- 29日（金）お楽しみ会（幼）
校外学習④（中）
介護等体験N-②（中）